

新市長就任あいさつ

住みやすさを実感できる竹原市を目指して



竹原市長 今榮 敏彦

このたび、昨年12月24日に執行されました竹原市長選挙におきまして、市民の皆様や各方面からのご支援を頂き、本市の舵取り役を担わせて頂くこととなりました。

改めて、市政運営を担うこととなるその職責の重さに身の引き締まる思いであり、これからの4年間、皆様からの負託にしっかりと応えできるよう全力で邁進しなければならぬと感じております。

さて、本市の人口は平成27年の国勢調査で26,426人、65歳以上の高齢者数は、10,065人に、高齢化率も38・2%になっており、人口減少、高齢化は、国や広島県の平均を上回るスピードで進行しています。

このことは、単に竹原市の人口が減少する、高齢者が増加するという問題だけではなく、「雇用の場と雇用の機会の減少」、「将来を担う若者の地域外への流出」や「地域コミュニティの衰退」など内包する様々な課題に目を向けて対応する必要があるものと考えています。

一方で、人口減少、高齢化は、社会構造的な課題でもあることから短期間で改善できるものではなく、将来を見据え、時々の社会情勢を捉えながら取組むべきものでもあります。市民の皆様が感

じている閉塞感を打開し、「生まれて良かった」、「住んでみたい」、「住んで良かった」、そして「帰ってきたい」と思える竹原市の実現に向けてまちづくりを進めてまいります。

その第一歩として、本市の魅力を発信していきます。

本市は、瀬戸内の温暖な気候や豊かで災害が比較的少ない自然環境、江戸時代の塩田経営で栄え、歴史的景観を残す町並み保存地区、頼山陽や池田勇人、竹鶴政孝、今井政之氏などの著名人を輩出した歴史・文化など多くの誇れる地域資源を有しております。これらの資源を十分に活かし、磨きをかけ、竹原市の魅力として発信し、国内外の観光客を含めた交流人口の拡大を図ることで地域の活力を高めていきたいと思っております。

その取組の一環として、企業や一般の方を竹原の応援団として募り、竹原のファンとなつて頂くことで、郷土愛の醸成とまちの魅力や情報を積極的に発信していきます。

このようなシティブロモーションを展開することで、認知度や知名度を高め、地域のにぎわいの創出に繋げてまいりたいと考えております。

また、市庁舎や市民館などの老朽化した公共施設の移転・整備を進め、公共サービスを提供する

場としてのみならず、町並み保存地区なども連動した人の流れをつくり、市中心部の魅力を向上させ、人が集う拠点となるようまちづくりを進めてまいります。

さらには、それぞれの世代が活躍できるようライフステージに応じた各種施策の取組を深化させ、子ども園などの子育て支援、ICT教育や英語教育の充実、医療・介護機関との連携強化や地域で支え合う仕組みづくりなど、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる竹原市の実現を目指します。

こうした取組によるまちのにぎわいや魅力の創出は、新たな人の流れを生み、多世代の人たちが活躍できる環境が育まれると思っております。

一方で、これらの取組を着実に実施し、成果を発現させるためには、私を含め職員一人ひとりが市民の声にしっかりと耳を傾け、新たな気持ちで果敢にチャレンジする必要があります。また、持続可能な行政運営を行う観点から職員のやる気の喚起と将来を担う人材育成についても取組んでまいります。

最後に、ふるさと竹原市の「未来を創っていく」覚悟を持ち、市民・企業・団体との連携を図りながら、「住みやすさを実感できる」まちづくりに邁進してまいりますので、市民の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

● 所信表明を述べる

今榮市長

